SOCCER NEWS SHIGA

（発　行）滋賀県サッカー協会
（責任者）理事長　奥村　弘
栗太郡栗東町小野796
（印　刷）株式会社スマイ印刷工業
栗太郡栗東町川辺568-2

天皇杯県予選を振り返って

甲賀クラブ監督　粂野幸雄

5年前、社会人1部リーグ昇格と天皇杯出場を目標に5部リーグよりスタートしましたが、今年その目標が同時に達成出来、大変嬉しく思っています。これも、サッカーに専念出来る環境にある事と連盟の方々の御支援のお陰と感謝しております。さて、今大会を振り返りますと、昨年度の大会で、決勝戦に進出するも草津東高さんに一本のシュートも打てず完敗。この試合を反省し、冬場の走り込みと週4回の練習で集中力の強化をし大会に臨みました。一次予選では、試合を重ねる度に安定し、ベストな状態で決勝戦に臨めました。準々決勝の草津東高さん、準決勝のマッチーズさん共にすばらしいチームで、なかなか点が取れず苦しい展開となりましたが最後迄集中が切れなかった事で決勝に進出する事が出来ました。決勝は、インターハイ出場の守山北高さん。前半勝負と決め最初から攻撃的なサッカーを心掛けました。後半同点に追いつかれましたが、残り10分で岡田のシュートが決まり、これが決勝点となりました。決勝戦迄耐えられるサッカーが出来たのは、やはり走り込みと1部リーグでのレベルの高い試合を経験したからだと思います。11月29日はJFL大分トリニティーとの対戦。プロチームの厳しさは充分解っていますが、失点を恐れず一点取る事に集中し、試合終了迄全力で戦いたいと思います。

第3回　滋賀FA CAP
（第78回天皇杯全日本サッカー選手権大会滋賀県大会）
守山市　佐川急便G

8月30日(日)　9月5日(土)　6日(日)

準決勝：ルネス学園甲賀　1－1（0－0）PK 6－7　守山北高校
甲賀クラブ　1－0（0－0）　マッチーズ
決　勝：守山北高校　1－2（0－1）　甲賀クラブ

甲賀クラブは全国大会出場

第九回全日本ユース選手権大会　三位

草津東高等学校　小林茂樹

六月二十九日に近畿大会に優勝し、八月二十九日からの全日本ユース選手権に出場が決定してからその大会になるべく近い条件で準備を行った。芝生・ナイター・90分のゲームに慣れる事を前提に夏休みの計画をし、特にAチームの試合は殆ど県外の芝生で行い、様々なピッチ状態に対応できるようになった。

一回戦ジュビロ磐田ユース戦から準決勝ガンバ大阪ユース戦まで何れの試合も接戦であったが、Jのユースチームのパスと判断のスピードは見習うべきものがあった。高校対クラブチームという図式の中でこの年代の真の日本一を決定する大会であったが、我々には選手権に向けて大変良いシュミレーションになり、意義深い大会であった。

一回戦　草津東　2（1－0、1－1）1　ジュビロ磐田ユース
二回戦　〃　1（1－0、0－0）0　熊本国府
準決勝　〃　0（0－0、0－1）2　ガンバ大阪ユース

監督　小林茂樹

背番号	ポジション	氏名
1	GK	小野聡人
2	DF	松崎忠介
3	DF	神崎亮佑
4	DF	間所靖英
5	DF	高木和道
6	MF	寺脇　輝
7	MF	鵜飼貴文
8	MF	森　陽平
9	FW	高橋洋平
⑩	FW	岡谷　良
11	MF	藤井義久
12	MF	松尾浩篤
13	DF	一原　悠
14	FW	川西和夫
15	DF	竹中真哉
16	DF	松井健司
17	GK	渡邊博之
18	MF	藤原　昭
19	FW	井口武昭
20	DF	蓑方直樹
21	GK	鍋田　亘
22	FW	近江孝行
23	FW	森　祐生
24	MF	中川英之
25	DF	山中明典

ミニ国体の結果

〔少年男子〕
滋賀ク　7（3－0、4－0）0　和歌山
〃　1（1－1、0－2）3　大阪
〃　2（0－3、2－2）5　兵庫
本大会出場ならず

〔成年女子〕
滋賀　1（0－1、1－1）2　奈良
本大会出場ならず

〔成年男子〕
・8月22日　VS和歌山選抜（京都太陽ケ丘G）
滋賀選抜　2（0－0、1－1　延長1－0）1　和歌山選抜（Vゴール）
・8月23日　VS大阪選抜
滋賀選抜　3（1－2、2－0）2　大阪選抜
本大会出場　10月24日(土)～10月29日(木)　神奈川県横浜市

国体予選をおえての感想

山本俊彦

3月中旬からセレクションまたは強化練習を実施し、8月22、23日に行われる国体近畿ブロック予選に臨み、選手たちの大活躍により、みごと2年連続本大会出場を果たした訳だが、予選前に実施した約10回の練習試合では惨々たる成績であった。3、5、2というシステムの理解とディフェンスのやり方の理解が遅々として進まず、守備面でもたついている内に、大量点を奪われまた、2トップのバランスとMFのパスの特徴が噛み合わずなかなか得点できないという悪循環が続いた。

しかし、私自身昨年の経験から、このような結果に全く悲観的にはなっていなかった。昨年のチームもチームとして仕上がったのは予選を通じてであったからだ。そういう意味において今回のくじ運はわがチームにとって非常に幸運であったと思う。和歌山戦において、チームとしての方針を理解し、大阪戦においてチームがチームとして大いに機能しだしたからだ。以後、和歌山戦、大阪戦についての戦評を述べる。

－和歌山戦より

迷わず1ボランチによる攻めの布陣を選択、ボールを6割以上支配しながらなかなか点がとれずに、逆に後半16分FKから失点した。徐々に時間のなくなってくるなか相変わらずボール支配率は高いが得点できないという、和歌山の意図する通りのゲーム展開となっていた。そこで、後半20分ベテランのFW梅田を投入。これによりシュートが増えだし、残り5分のMF小田の巧みなシュートが決まり同点。そして、延長前半3分、PKをもぎ取り、これを小林が確実に決めて、苦しみながらも勝利をものにした。恐らく選手も含めて関係者のほとんどがこの薄氷を踏む勝利に関して、不安こそ抱いても、決していい試合だと思った者はいなかったであろう。しかし、ここで苦しんだことがチームの成長に大いに役立ったと、私は確信していた。この苦しみがなければ決して大阪戦での勝利はなかったと思う。結果論ではあるがチームの育成上、最高の場面を味わうことができたと思っている。

－大阪戦について

当日の朝まで、1ボランチでいくか2ボランチにするのか、迷っていた。2ボランチの布陣を敷けば、攻めの意識が薄れ、とにかく守り切ろうという意識が強く働きすぎるのではないか、いくらその意識が強くても大阪相手にそれが通用するだろうか、それなら攻めた方が良いのではないかと考えたからである。

しかし、悩みぬいた揚げ句、2ボランチを選択。「結果的に絶対に攻められるだろうから、2ボランチにした。しかし、攻めにつなげるための2ボランチだ。」と言って選手を送り出した。いくら大阪といってもこの炎天下、絶対後半には運動量もプレッシャーも落ちると考えた。前半もし同点か1点差でしのげれば、後半攻めの選手を投入し勝負に出ようと考えていた。

試合開始3分大阪のビューティフルゴールで失点。その後すぐDFの中心で主将の松下が負傷退場のアクシデント発生。これにより、いよいよ緊張感が高まり、GK青木のファインセーブにもたびたび助けられたこともあるが、第一ディフェンスラインからのFWの追い込み等、ここにきて、口をすっぱくして言ってきたことが実を結んだと言える。その後1点をもぎ取り2－1で前半を折り返した。

この展開に対し、後半迷わず攻めの布陣に転換した。1ボランチに戻し、より攻撃的で展開力のあるMF山内を投入。これが功を奏して後半5分右ウイングバック増田のオーバーラップからのシュートが決まり同点。その後全く五分五分の展開が続いたが後半25分DF今村がバックチャージにより退場を命じられた。アップを命じられていた梅田が「自分はDFに入るのか。」と尋ねてきたが、和歌山戦同様FWとして投入。その直後小田の中距離弾が決まり勝ち越し、そしてタイムアップ。劇的な勝利であった。

まさにこの勝利は選手、スタッフ一丸となって手にしたものである。真夏の太陽の下、諦めずにとことんボールを追い、最後まで集中をとぎらさなかった選手たちに心より敬意を表したい。また、縁の下の力持ちとなって遠征合宿を企画したり、練習試合を組んだり、選手に連絡をとったりというマネージメントの仕事を一手に引き受けていただいた新鷲氏に対しても心より感謝申し上げたい。

－本大会にむけて

滋賀県リーグの後半戦も始まり、選抜チームとして練習できる時間は非常に限られるが、再度方針の徹底による共通理解部分の増大を図るべく、頭をフルに使った練習会を実施し、大阪選抜に勝った自信と誇りを胸に本大会に臨みたい。そして、昨年果たせなかった本大会での1勝を今年は是非為し遂げたい。

国体予選参加メンバー

スタッフ
監督　山本俊彦（NEC関西）　コーチ兼主務　新鷲広司
選　手
GK　青木淳弥（NSK石部）、高山優作（ルネス学園）
DF　田村真樹（栗東クラブ）、今村義明（東レ）松下哲広（信楽クラブ）、木幡一輝（志賀クラブ）
MF　増田一博（甲賀クラブ）、近藤明浩（ルネス学園）、山内義広（東レ）、小田一哉（ルネス学園）、天川昌洋（志賀クラブ）、望月育彦（アリーバ甲賀）
FW　小林崇法（甲賀クラブ）、橋田宙士（アリーバ甲賀）、梅田英幸（愛蹴会）

50周年記念事業へ寄付のご協力を！

7月の理事会から審議されてきた募金活動の内容が9月の理事会で承認され、いよいよ本格的に滋賀県サッカー協会50周年記念事業に向けての活動が始まることとなった。県協会は50周年という節目の年を迎えるにあたり、50年間の歩みをまとめることにより過去の実績を再確認し、記念事業を新たなる第一歩として、若手選手の育成、滋賀県サッカーのさらなる充実、発展を目指したいと考えている。ただ、事業を実施するには経費が必要であるので、県協会は今年度より小学生から社会人まですべての協会登録選手に協力金をお願いし、基本的な資金集めをしてきたのであるが、これだけではなお相当額の不足が予想される。そこで、不足分は募金活動を行い寄付金で補うことになった。

寄付金としては、個人の賛助金（一口一〇〇〇円）、企業の賛助金（一口五〇〇〇円）、企業の協賛金（一口五〇〇〇〇円）の三種類に分けることになった。また、寄付の特典として、賛助金をいただいた個人には記念講演会への案内を、賛助金をいただいた企業には記念誌に企業名を掲載し、記念式典・講演会への案内をすることに、また、協賛金をいただいた企業は記念誌への広告掲載および記念式典・講演会への招待をすることになった。

協賛金（企業）の募金活動は県協会事務局を中心に行うが、賛助金（個人・企業）の募金活動については各チームにも協力をお願いすることになった。事業の成功はこれらの寄付金の集まり具合によると考えられるので、各チームの絶大なご協力をお願いします。

〔3種〕
◉中体連　◦10月15～17日
秋季総体（各ブロック毎）
◉高円宮ジュニアユース滋賀県大会
10/4準決（ユーノス－城山中、甲南中－長浜　東中）と決勝

〔4種〕
第30回滋賀県サッカースポーツ少年団選手権大会
（第6回しがぎんカップ）
10月25日(日)～11月15日(日)
於　神照運動公園　他

〔5種〕
滋賀県女子サッカー選手権大会の予定
少　女　H10年11月1日(日)
於；甲南町多目的グランド
レディース　H10年11月1日(日)
於；信楽総合運動公園
ママさん　未定　8チーム

第3回びわこカップ大会
（滋賀県女子連盟選抜招待大会）
H10年12月12日、13日
於；近江八幡運動公園

速かった全国のチーム

栗東FC監督　橋本恵一

一試合目の広田戦の前半は、相手のペースで始まり、なかなかペースがつかめなかった。後半は緊張もとれ、自分達のペースでできたが、内容はもうひとつだった。人工芝に慣れずパスミスなどが多かった。二試合目は、緊張もなくなりよくなるかなと思ったが、集中力があまりなかった。初日は二勝と良いスタートだったが自分達のやろうとしたことが、なかなかできなかった。三試合目は、一番大事な試合だったが、初日の二勝で自分達は強いと勘違いしていたようで、受け身にまわって、前半で勝負がついてしまった。後半は自分達のペースでできたが、なかなか点が取れず負けた。相手はすべてにおいて速かった。全国の速さを知った試合となった。四試合目は、子どももやりたかった相手だと思うレイソル戦は、相手の身体能力が高くなかなか自分達がやろうとしたことができずに負けたが、自分達はもう少し出来ると思っていたんじゃなかったかなと思う。二連敗と全員が悔しい思いの二日目だった。五試合目は勝てばトーナメントにでれる可能性があったが、負けて二勝三敗と予選落ちの結果だった。五試合戦ったが、自分達の持っている力をなかなか出せずに終わった。全国のチームは、自分のチームと比べて速かったチームが多かった。全体に技術の高い選手が少なかった。全国大会で普段の力がなかなか出せなかった。普段通りやることが一番難しい大会だった。この全国大会での経験を今後に生かしていってほしいと思う。全員がいい経験ができて全国大会に出場できていい思い出になった。

栗東FC	1－0	広田少年サッカークラブ（富山県）	
〃	2－1	総社サッカークラブ（岡山県）	
〃	0－4	山形JFC（山形県）	
〃	0－4	柏レイソルユース（千葉県）	
〃	1－2	与那城フットボールクラブ（沖縄県）	

石部中学校が全国中学生サッカー大会に出場

（8/17～、岩手県花巻市）

◎一回戦　1－5　那珂湊（茨城）

出場選手（エントリー）18人のうち3年生の大半が石部南小出身で気の合った間柄、小学生の時に、熱心に基礎、基本を中心に教えこまれている。だから中学校では、それプラス特に練習試合を多くとり入れ経験を積ませて試合の中で技術、精神力のことを指導し、チームとしてどのように戦っていくのかがメインであったような気がする。攻撃面では、子供たちの中にイメージがありすごく多彩であった。その反面、守備面は相手の動きに常に注意を向けることができずボールをみてしまって相手をフリーにしてしまうことが多かった。やはり、トップレベルの試合になると通用しないことが全国出場し、すごく実感した。これは自分自身の課題として今後学んでいかなければならないことの1つである。子供たちにはほめてやりたいことが1つある。それは部の大会が始まり、全国までの長い期間の集中力、この年代ではすごいことである。オーバーかもしれないが今後の人生で苦しいことを乗りこえていく時のきっとプラスになることを信じている。この夏、いろんな経験をさせてもらったことを今後の指導に生かしていきたい。いろんな面からの皆さんの応援本当にありがとうございました。指導に関してはまだ未熟であるのでいろいろ教えてもらわなければならないことがたくさんあると思います。今後ともよろしくお願いします。

背番号	位置	氏名	身長(cm)	体重(kg)	学年
1	GK	勢多慎也	170	58	3
2	DF	太田一路	171	57	2
3	DF	堀井健太	172	55	3
4	DF	岸谷旭紘	170	56	3
5	MF	北村秀幸	162	47	3
6	DF	高杉直樹	165	53	3
7	FW	星野裕也	177	57	3
8	MF	谷山竜太	170	60	3
9	MF	服部直樹	166	54	3
10	MF	松長竜哉	164	52	3
11	MF	梶原正稔	165	54	3
12	FW	江崎祐太	159	46	3
13	GK	木屋尾茂	173	75	3
14	MF	国松佑弥	164	47	3
15	FW	木元智史	167	57	3
16	MF	西村亮人	170	55	3
17	DF	石川清一	158	47	2
18	FW	武田裕也	159	45	2

関西トレーニングセンター報告

8月26日(水)から28日(金)にかけて奈良県で2・3・4種に分かれて、2府4県の選抜チームが集い、指導者も選手も交流を深めてきました。

《2種》

大家　悠（水口高2年）が関西選抜に選ばれました。

《3種》

次の4名が関西選抜候補に選ばれました。

山本直人（仰木中2年）
久保幸平（瀬田北中2年）
早崎義晃（比叡山中1年）
森村匡史（城山中1年）

《4種》

次の5名が関西選抜候補に選ばれました。

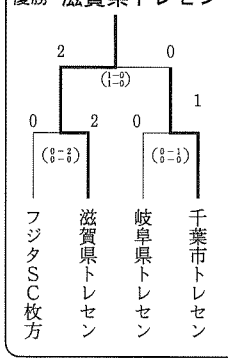
国枝恒兵（栗東FC）
山本伸治（老上）
加地慧（志津）
浅居泰弘（豊郷）
北川信弥（北郷里）

滋賀トレセンが二連覇！

～NTT杯第7回滋賀招待中学生サッカー大会～

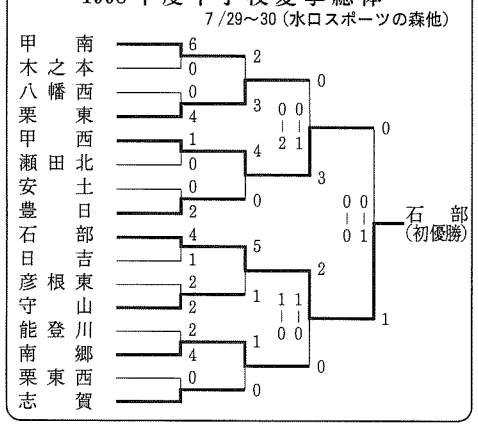
チャンピオントーナメント

優勝　滋賀県トレセン



1998年度中学校夏季総体

7/29～30（水口スポーツの森他）



第47回近畿中学校総体（8／7～8、奈良県）

◎甲西中学校

・予選リーグ2位

×1－3小田南（兵庫）　○2－1粉河（和歌山）

・第5代表トーナメント

×3－4美加の台（大阪）で全中進出ならず

◎石部中学校

・予選リーグ1位

○2－1　多田（兵庫）　△1－1吹田第六（大阪）

・決勝トーナメント　×1－3　藤森（京都）

第4代表で全中進出決定

日本クラブジュニアユース選手権関西大会

・5～8位トーナメント

ユーノスFC　1勝2敗で8位となり惜しくも全国大会進出ならず

国際審判員・一級審判員の活動を終えて　連載9

警告や退場について

滋賀県サッカー協会副理事長　Jリーグ審判委員会　委員　森津陽太郎

警告や退場を受けることは選手にとって屈辱的なことです。審判をしていても警告や退場のない試合は気持ちのよいものです。一流の選手の中に、警告や退場を一度ももらわなかった選手は結構いるんですよ。Jリーグの開幕の年から、名古屋グランパスに在籍していたリネカー選手は、国際試合で一度も警告・退場を受けたことがなく、フェアープレー賞を受けたことは有名です。リネカー選手のように、一度も警告・退場を受けないというのは確かに難しいことかもしれません。しかし、常日頃から警告や退場をもらわないような努力をしているかどうかが大切です。

警告・退場について少し説明をしましょう。警告・退場処分を受ける行為にはそれぞれ左記のように七つの項目があります。

警　告

1. 反スポーツ的行為
2. 言葉、行動による異議
3. 繰り返し競技規則に違反
4. プレーの再開を遅らせる
5. フリーキック時の10ヤード
6. 承認を得ないで入場
7. 承認を得ないで競技場を離れる

退　場

1. 著しく不正なプレー
2. 乱暴な行為
3. つばをはきかける
4. 故意に手を使って決定的な得点の機会の阻止
5. 決定的な得点の機会の阻止
6. 侮辱的、口汚い発言
7. 二つ目の警告

警告の「反スポーツ的行為」は、古いルールブックでは「非紳士的行為」といわれていたものです。女性がサッカーをすることが当たり前になってきた今、男性を表す「紳士」という言葉がルールに使われなくなったことからです。このルールはサッカーというスポーツを一番よく表していると思います。具体的な行為は示されていないけれど、とにかく「反スポーツ的」なことはしてはいけないのです。「スポーツマンとして許されないことはするな」ということなのです。また「言葉、行動による異議」はたとえ明らかに審判がまちがっていても異議を示してはいけないし、侮辱的、口汚い発言は退場処分です。判定をゆだねた第三者である審判には畏敬の念を持って接するのは当然のことだという思想が根底にはあるのです。

ここ、四、五年前に新しく退場処分を受ける項目となった「決定的な得点の機会を阻止する」というのは、サッカーで一番スリリングでエキサイティングな得点シーンをファールでつぶし、サッカーのおもしろさを台無しにしてしまうプレーを厳しく罰しようとするものです。

とにかく、警告や退場処分を受けるということは、サッカーのおもしろさをそこなうプレーをしていることであり、もっと大きな観点から考えれば、サッカーの発展を阻害しているということになるのです。

警告や退場を受けなくても相手選手に打ち勝つ高いレベルを身につける努力を積み重ねてほしいと思います。

〈1種〉

第34回全国社会人サッカー大会

7月26日(日)　長居第2陸上競技場

1回戦：アリーバ甲賀　0－4　NTT関西（関西社会人）
（0－1）

第51回滋賀県民体育大会

7月26日(日)　8月2日(日)、9日(日)　大津市

準決勝：草津市　3－2（2－1）　甲賀郡
：大津市　4－3（3－0）　蒲生郡
決　勝：大津市　2－0（1－0）　草津市

TOYOTA CHALLENGE CUP '98
全国クラブサッカー選手権大会

7月12日(日)、19日(日)、8月23日(日)　滋賀銀行石山

準決勝：甲賀クラブ　2－0（1－0）　ノースウェーブ
：マッチーズ　0－0（0－0）PK 4－3　RITZ
決　勝：甲賀クラブ　2－1（1－1）　マッチーズ

甲賀クラブは関西大会出場　10月16日(金)～18日(日)　大阪府

〈2種〉

全国高等学校総合体育大会

守山北（0－0 3PK5）熱田

〈4種〉

近畿ブロックスポーツ少年団サッカー交流大会

伴谷　2－4　砂山（和歌山）
伴谷　0－2　比叡（京都）
伴谷　1－5　生駒（奈良）
伴谷　1－6　高田（奈良）
能登川南　9－1　鼎北コスモス（大阪）
能登川南　3－5　安室（兵庫）
能登川南　1－1　Jマルカ（京都）
能登川南　1－2　御所（奈良）

〈女子〉

ジュニアユースサッカー関西予選

8月23日　菩提寺小学校

兵庫　4－1　滋賀

ユースサッカー選手権関西予選

8月30日　大阪田辺松下G

兵庫　4－0　滋賀

第10回県技術・審判合同研修会

第10回県技術・審判合同研修会が8月8日、9日、講師に、日本サッカー協会ナショナルトレセンコーチ、関西担当の松永英機氏。日本サッカー協会一級審判員の森津陽太郎氏を招いて、一泊二日の日程で、守山北高を会場に開催されました。

松永氏の実技指導はU－14の選抜選手対象に、キック、ワンタッチコントロール、ランウィズザボール、アイコンタクトなどの指導があり、その中でも特に正確性を大切にしなさいとのアドバイスがありました。

講演では、「世界から見た日本のサッカーと今後の課題。」という事で、日本は、パス、試合の流れ、状況判断を含めたスピードが遅い。ボール扱いだけでなく判断を伴ったテクニック。フィニッシュの工夫。一対一の強化等の課題を指摘されました。

森津氏の講演では、W杯で問題になったレッドカード、イエローカードが出る反則の違いついて話がありました。

尚、今回の研修会から、有資格指導者（C級指導員、準指導員）には、リフレッシュ研修として受講して頂くことになっております。今回参加していただけなかった方は、次回参加して頂くようお願いいたします。

次回は、

平成10年度サッカー協会技術指導者講習会

平成10年12月6日(日)

※詳細については後日連絡します。